

二〇二五年三月二十五日

第五十回卒業証書授与式。

シンジヨ―は、あまり眠れなかった。夜、布団に入ってから、いろいろなことを思い出していた。一年生の先生は、二年生の遠足は、。考えながら、シンジヨ―は、今の担任の顔が浮かんだ。「なんでこんな宿題を出すんだ」。眠れないことを、担任のせいにし始めた。担任から宿題が出た。

「小学校最後の宿題です。今日は家に帰ったから、遊びに行きません。小学校に入学してからのことをしっかかりと思いつけなさい。一年生の先生の顔、二年生のときに行った遠足、その時のお弁当。三年生の算数で何を勉強したか。四年生の運動会では、何をやったのか、何位だったのか。五年生の時は、隣の席に誰が座っていたのか。とにかく、時間をかけて、じっくりと思い出しなさい。これが、最後の宿題です」

珍しく提出は求めない。書き込み用のワー

卒業式は無事に終わった。合唱の途中から、	話をしながら歩いた。	れているのだろう。友達とはいつも	何か、いつもと違う。きつと自分も	緒になつた。みんな卒業式の服を着	学校が見えてくると、何人かの六年	年生で班長になって歩いたこと。	班長と副班長のクラスが学級閉鎖に	たつてしまいい、あとで母と謝りに	と。雪合戦をしながらか歩いていた	思い出した。犬に追いかけられた子	学校に行くまでの道でも、いろんな	んなことがよみがえってきた。	で来てくれたこと。一分くらいの間	力したので、担当の先生が何日か集	したら、副班長に怒られたこと。誰	歩いてくれたこと。忘れ物を取りに	転んで泣いたこと。六年生がいつも	一緒に集合場所に行ったこと。出発	ろんなことを思い出した。一年生の	場所に立って、しばらく周りを見て	つたのだ。もちろん誰も来ない。一	ずっと同じ場所だった集合場所に行
----------------------	------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

「	扇	小	に	来	て	よ	い	理	由	の	一	つ	は	、	ど	う	し	て	も
い	出	す	の	は	、	昨	日	で	終	わ	り	。」							
驚	い	た	。	「	扇	小	に	来	て	は	い	け	な	い	」	な	ん	て	。
き	つ	と	他	の	子	も	、	シ	ョ	ツ	ク	だ	っ	た	は	ず	だ	。	担
任	は	続	け	た	。														
「	み	ん	な	が	扇	小	に	来	る	の	は	、	二	つ	の	理	由	が	あ
る	と	き	だ	け	だ	。」													
の	音	は	、	シ	ン	ジ	ョ	ー	の	耳	に	は	入	っ	て	こ	な	い	。
最	後	の	担	任	の	話	を	、	み	ん	な	が	体	に	し	み	こ	ま	せ
る	よ	う	に	聴	い	た	。												
「	扇	小	に	来	て	よ	い	理	由	の	一	つ	は	、	ど	う	し	て	も

出

出	し	て	い	て	は	い	け	な	い	。	小	学	校	の	こ	と	を	思	
い	け	な	い	。	い	つ	ま	で	も	小	学	校	の	こ	と	を	思		
「	中	学	校	に	行	っ	た	ら	、	も	う	扇	小	学	校	に	来	て	は
教	室	で	は	、	担	任	か	ら	意	外	な	話	が	あ	っ	た	。		
っ	と	恥	ず	か	し	く	も	あ	っ	た	。								
業	式	に	泣	く	と	は	思	っ	て	い	な	か	っ	た	の	で	、	ち	よ
シ	ン	ジ	ョ	ー	も	泣	き	出	し	て	し	ま	っ	た	。	自	分	が	卒
涙	を	流	し	て	い	て	、	そ	れ	を	見	て	し	ま	っ	た	の	で	、
ら	歌	い	終	え	た	。	退	場	の	時	に	は	、	担	任	が	み	ん	な
染	し	て	し	ま	っ	て	、	か	な	り	多	く	の	子	が	泣	き	な	が
ク	ラ	ス	の	何	人	か	が	泣	き	出	し	た	の	で	、	そ	れ	が	伝

